

平成30年度 全国学力・学習状況調査の結果について

調査実施要領にありますように、本調査結果は、学力や学習状況の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面ではありますが、学校として以下の結果について真摯に受け止め、子どもたちの学力並びに学習意欲の向上に努めてまいります。保護者のみなさんのご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。

【学力状況調査】 <学習指導要領の領域の平均正答率の状況>

【国語】	【算数】	【理科】
<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="width: 45%;"> <p>A(基本)</p> </div> <div style="width: 45%;"> <p>B(応用)</p> </div> </div> <p>全体的な状況 ABともに正答率は、全国平均を上回っています。Aの「話すこと・聞くこと」の領域において、若干課題が見られたものの、普段から、主体的に考えさせる授業を継続して取り組んできたことにより、良好な結果となりました。</p> <p>成果 これまで、継続して取り組んできたどの教科においても「めあて」から「まとめ」までの経過をはっきりとさせる授業づくりと評価テストのやり直しを着実にさせることで、質問の意味をきちんと理解し、与えられた課題に対応する力がついてきています。昨年度の課題のあった漢字については、復習・自習学習の成果もあって正答率も向上しています。</p> <p>課題 記述式の設定では、短い言葉では答えることができるのですが、字数の制限など、与えられた条件の中で、自分の考えを文章に表す力に課題が見られます。</p> <p>課題解決に向けた取組み 今後も漢字の練習量を維持していくとともに、児童一人ひとりに、自分の意見をしっかり持たせ、それを授業の中で交流していくなど、自分の考えを表現する機会が多い授業づくりを心掛けていきます。また、文字数の制限など解答の仕方に条件のある問題にも多く取り組ませていきます。</p>	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="width: 45%;"> <p>A(基本)</p> </div> <div style="width: 45%;"> <p>B(応用)</p> </div> </div> <p>全体的な状況 ABともに正答率は、全国平均を大きく上回っています。これまで継続して行ってきた習熟度別少人数授業において、児童一人ひとりの課題に応じた授業を展開してきたことで、基礎基本・応用力が定着してきています。</p> <p>成果 「もと」に当たる大きさを求める問題の正答率が、大阪府や全国の平均と比べ、非常に高い結果となりました。これは、5年生の時から小数のかけ算・わり算、割合の問題などで、数直線図を使って指導を続けてきたことや理解度に応じた授業づくりと反復練習、さらに、評価テストのやり直しをきっちりとさせることから、全体としての理解度が上がったと考えられます。</p> <p>課題 図形領域の設定の正答率が、他の領域の問題と比べ、少し低い結果となっています。この領域の問題においても大阪府や全国の平均よりは上回っているものの、4年生で学習してからの分度器の使い方や角度の測り方についての復習が不十分であったと考えられます。</p> <p>課題解決に向けた取組み これからも記述式の問題演習を積極的に取り入れ、問題を解くための過程を大切に授業を展開するとともに、今回、課題として挙げられた図形領域の学習についても、復習の機会をもち、学力向上に取り組んでいきます。</p>	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="width: 45%;"> <p>A(基本)</p> </div> <div style="width: 45%;"> <p>B(応用)</p> </div> </div> <p>全体的な状況 理科についても、国語・算数と同様、どの領域においても正答率は、大阪府や全国の平均と比べて上回っており、良好な結果となり、昨年度3学期に復習・確認を行った成果と考えています。合わせて、理科の学習で児童に付けたい力の中でも、とりわけ観察・実験の技能や科学的思考力が十分に身につけてきていることがうかがえます。</p> <p>成果 学習課題について、「どのような予想を立て、結果からどのような事がわかるのか」を、児童間で意見を交流する機会を多くとる授業づくりが、科学的思考・表現、観察実験の技能の伸長につながっていると考えられます。</p> <p>課題 堆積作用についての科学的な言葉や概念に関する問題では、全国平均を少し下回っており、理科的な言葉の習得に若干の課題が見られました。</p> <p>課題解決に向けた取組み 今後も校内体制として、明確に理科担当を配置することで、科学的な興味や思考力を育てるために、工夫した授業づくりに取り組んでいきます。また、科学的な言葉や概念についての知識・理解を着実なものとするための工夫についても取り組んでいきます。</p>

【学習状況調査】

状況が良好な主な項目	本校	府	全国
学校の授業以外に、1日当たりどれくらいの時間勉強しますか(1時間以上と答えた児童)	80	58	66
算数の問題の解き方がわからない時は諦めずにいろいろな方法を考えますか	86	76	78
自分にはよいところがあると思いますか	86	81	84

全体的な状況
昨年度、課題の一つに挙げていた「自分にはよいところがあると思いますか」という自己肯定感についての質問に対して、相対的に向上しています。また、ほとんどの児童が、学校以外での学習時間を確保している様子が見えます。また、与えられた課題に対する子どもたちの姿勢についても良好です。

成果
自己肯定感の高さは、自分自身だけでなく他の児童を大事に思う心の育成にもつながります。また、学校生活・学習について、前向きに取り組もうとする姿勢とも大きく関係してきます。子どもたちが自分に自信を持ち、意欲を持って学校生活を送るための学校の取組みとご家庭の連携が成果として表れていると考えています。

課題を残した主な項目	本校	府	全国
いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか	93	96	97
今、住んでいる地域の行事に参加していますか	43	51	63
今までの授業で自分の考えがうまく伝わるよう、文章、話の組立てなどを工夫して発表しましたか	41	57	61

課題
「いじめ」について、昨年度と比べてポイントがアップしているものの、府や全国の平均よりも低くなっています。マイナス7ポイントの重みを受け止め、引き続き、道徳教育・人権学習を通じた「集団づくり」を軸として、この項目のポイントが100となるよう、「いじめ」を許さない学校となるよう取り組んでいきます。

課題解決に向けた取組み
教科の学習のみにとどまることなく、道徳・人権教育をととして、児童の発達段階に応じた人権意識を定着させ、自他共に大切に思う心の育成にむけた取組みを継続し、すすめていきます。また、すこやかネット「ふるさと喜志」やまちづくり協議会等の主催のイベントへの参加についても呼びかけ、地域の方との交流も大切にしていきたいと考えています。

○保護者のみなさんへ(全体を通じて)

・学習面では、今後も引き続き子どもが興味を持って学習に取り組めるような教材の工夫、授業づくりの展開をすることで、基礎・基本の定着と応用力の伸長をめざします。また、自分の意見・考えを安心して言えるクラスづくりにも取り組んでいきます。

・生活面では、学校生活の基盤となるものは友人関係であり、クラスの友人との良好な関係は学校の楽しさに繋がります。今後も良好な人間関係を築くためのスキルアップと毎日一定時間、家庭で学習する習慣をつけることや基本的な生活習慣の確立に向け、ご家庭との連携しながら進めていきたいと考えます。これからも、ご理解とご協力よろしくお願いいたします。

・本年度も本校PTAスローガンに掲げている、「朝ごはんの摂取」「スマホ・ゲームの時間と取り決め」「就寝時間」についての結果は、今年度も高い数字となっています。これらの項目は、本校に限らず、今の子どもたちにとって、各家庭で過ごす時間が充実したものとなることも大切な要因であります。各家庭が子どもたちの日常生活の基本を高い意識をもって取り組まれている結果であると考えます。引き続きご家庭での取組みをよろしくお願いいたします。